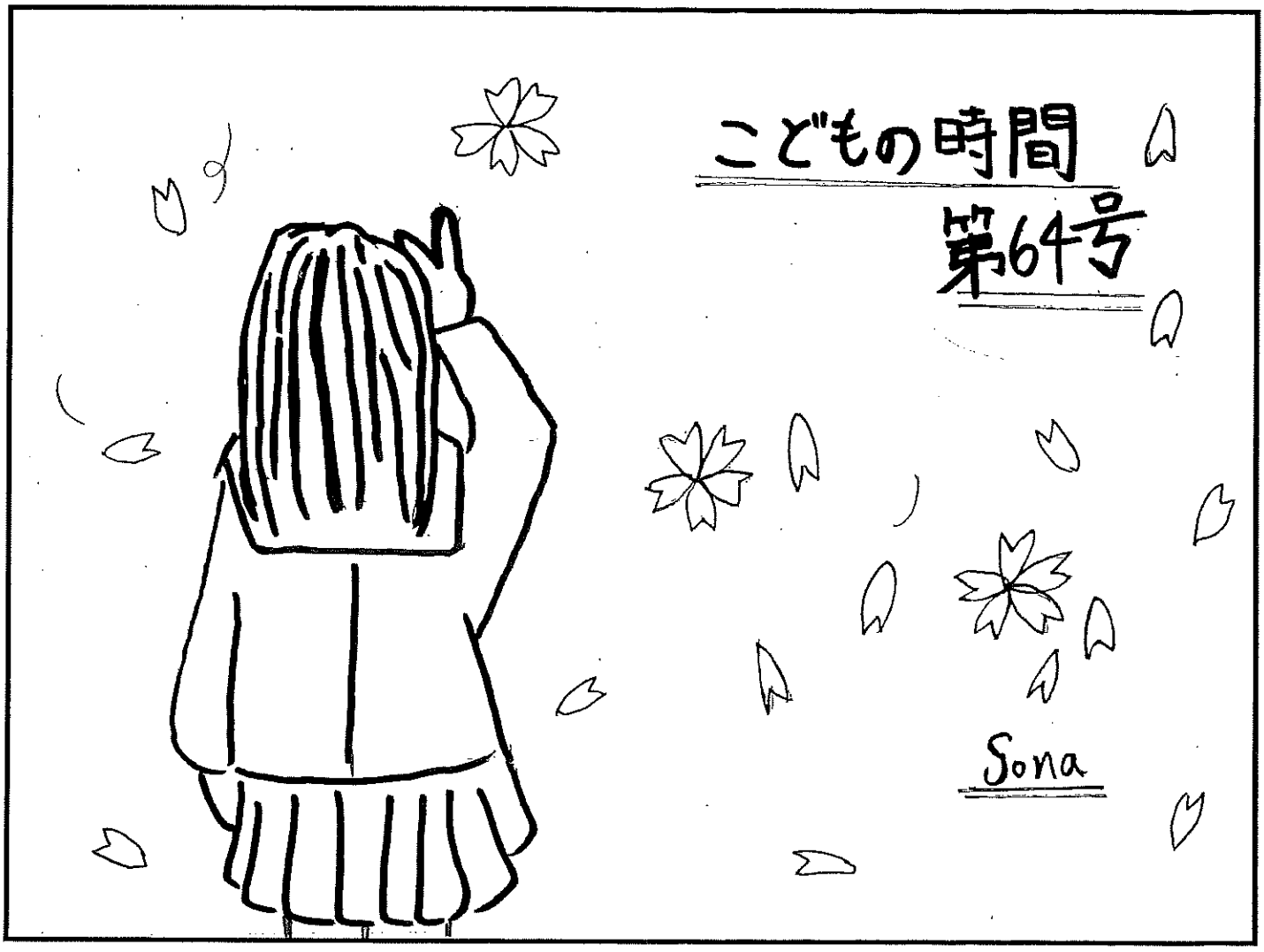


●特集●

「不登校」は問題ではありません・・・・・1
NPO法人キーデザイン　土橋 優平
○1/21講演会・参加者アンケート ・・・・・・2

「いじめとオープンダイアローグ」
斎藤環氏 2/3講演会より
○参加者アンケート ・・・・・・・・・・・3

なぜ戦争は止められないのか・・・・・4
森 俊博

ココロノアリカvol.36 ・・・・・・・・・5
「私の取り扱い説明書　その2」
水戸南高等学校 定時制同窓会会長　宮田 哲郎

よしこの世界一周大冒険シリーズ ・・・・6
「6回目の世界一周旅行はミッションインポッシブル」杉野 美子
こそだてコラム
「沖縄から水戸に引っ越してきて・・」安野名都美

絵本の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・7
図書館司書ずんちゃん
「こどもかいぎ」「はるにあえたよ」
「いのちがかえっていくところ」

まちがいさがし・・・・・・・・・・・・・8
ｂｙはっかあめ

水戸こどもの劇場より・・・・・・・・・・9
毎月の活動紹介　　参加者募集

その他のお知らせ ・・・・・・・10～11
事務所MAP　　訪問型病児保育のご案内　広告

発行 ： 認定NPO法人 水戸こどもの劇場
〒310-0912 茨城県水戸市見川2－82－11
TEL／FAX 029－255－0908
E-mail gekijo310@citrus.ocn.ne.jp
URL http://mito-kodomo.securesite.jp
LINE ・メルマガも発行しています。

「不登校」は問題ではありません

NPO法人キーデザイン　土橋　優平

みなさん、初めまして。栃木県を中心に、不登校で孤立する親子のサポートをするNPO法人キーデザイン代表の土橋です。普段はフリースクールや家庭教師を通して不登校の小中高校生と関わったり、保護者の方向けの無料LINE相談窓口「お母さんのほけんしつ」を通して日々お子さんの不登校に関する相談を受けたりしています。これまで1000を超えるご家庭からご相談をいただいてきて「不登校」ということについて考えていることがあるので、今回はそれについて綴ろうと思います。

みなさんは「不登校」と聞いてどのようなイメージを持ちますか。「将来大丈夫なの？」「何かつらいことがあったんだろうね」「かわいそう」そう思う方も多くいらっしゃるかと思います。ですが、私にとって不登校は「学校に行かない」以外の意味を持ちません。学校に行く子が100人100通りであるように、学校に行かない子も100人100通り。中には、自分の幸せのために不登校を主体的に選択した子もいます。学校に行くかどうかがその子の人生の幸不幸を確定させることはありません。「不登校を経験したからこの幸せな私がいる」「子どもが不登校になったおかげで親の私が成長した」私の周りには笑顔でそんな話をする人が大勢います。同時に、不登校を経験しその後、大人になって会社で働いていたり、結婚していたりと自立している方も大勢います。「でもその人数って少ないでしょ」そんな声が聞こえてきます。正直それはわかりません。不登校を経験した人のその後の人生を追った調査がないからです。「不登校になるとその後の人生が不安定になる」というのは単なるイメージでしかないのです。ただ事実としてあるのは、私の耳に届いてくる幸せな人々の声です。そしてその人々が共通して持っているものがあることに気づきました。それは、味方になってくれる人の存在でした。学校に行くかどうかでその子を判断せず、学校以外の道を一緒に考えてくれる人です。

「不登校問題」といわれて久しいですが、この語句のならびは学校に行かないことそのものが問題であるかのように勘違いさせてしまいます。ですがこの問題の本質は「学校に行かないこと」ではありません。「学校に行かないこと・学校以外の選択肢を認めない社会の雰囲気」が問題の本質なんです。

学校は、住んでいる地域のところへ通うことがほとんどです。この過程で「選ぶ」ということは基本的にしません。そして通い始めてからも、教育方針や環境、人間関係で学校が合わないと感じたとしても、通う場所を選び直すということもできません。でももし最初から子どもにあった場を選ぶことができたり、「合わない」と感じたときにすんなりと学び場を変えることができたりしたらどうでしょう。また学校ではない場、例えば塾や家庭教師、学童やフリースクールで勉強や人との交流の機会を提供することができたらどうでしょう。不登校はなんら問題ではなくなります。本来、学校以外の場でも、生きる力を育むことができるはずなんです。

近年、NPOなどを中心に子どもの居場所や学び場が増えてきています。ですが、まだまだ「学校絶対」という空気が拭えず、そうした学校以外の選択肢があってもそれを選ぶことが許されない雰囲気があります。

実際に親御さんからご相談いただく中で「子どもが怠けているだけ」「親が甘やかしているのが悪い」「親の責任」そんなことを言われたことがあると涙ながらにお話ししてくださることがとても多いです。子どものせいでも親のせいでもありません。個人に責任を押し付けていては何も変わらないんです。全国に30万人近い小中学生が不登校といわれている今の時代に、変わるべきは子どもや親御さんではなく、周りにいる私たち大人なのではないでしょうか。頭を柔軟にし、学校以外の学び場・居場所が子どもたちには必要なのだと理解し、その上で子どもたちに目を向けていくことが大切です。これは全ての大人ができることです。私もがんばります。孤立する子どもたちのために、みなさんも一緒に変わっていきませんか？

＜2024. 1. 21（日）講演会・参加者アンケートより＞

・自分の開いている会はとても小規模です。子どもの劇場さんのような大きな団体と私のような小さな団体で少しづつ役割が違うのかなと今日の土橋さんのお話しをききながら感じていました。いろいろな団体が共生し支え合いながら個人を支えていくような社会であるといいのかなとあらためて思いました。今日はこのような講演会を開いていただきありがとうございました。

・土橋さんの講演を聞けて良かったです。 不登校になったのは自分のせいじゃないかと思っていたので、そうじゃないと言ってもらえて少し安心しました。

・とても素敵なお話でした。 特に、教えられるアレルギーになっている子がいることや、大人のあたりまえでこどもを評価しないということが胸にしみました。 子ども達をもっと信じて待つことが大切です。そのためには、私たち達支援者が親をサポートしていきたいと思います。いつも、素敵な企画ありがとうございます。

・ありのままの自分を受け止めてくれる存在や、居場所が大切であることを改めて考える機会になりました。学校として出来ることは何か、考えていきたいと思いました。

・いままさに不登校の子、親と向き合っている方のお話しで、心に残ることがたくさんありました。ことに、土橋さんが、こどもと向かいあう姿を、やりとり、と表現するのがいいな、と思いました。また、こどもたちの好きなものを否定しない、それを教えてもらう、と言っていたのも、うれしいと思いました。こんな方が、どの町にもいてくれたら、楽しくなると心のそこから、思いました。

・土橋さんの支援者として、不登校のご家庭の変容がわかってとてもいい講演でした。フリースクール財政難のなかLINE相談などされており素晴らしい活動だと思いました。不登校家庭が孤立せず誰しも教育の権利を享受できる社会になればいいと思ってます。

・ライン相談はタイムリーにやりとりができ、相談しやすい手段だと思いました。 また、子どもも親も疲れきってしまっている状態から徐々に回復していく支援内容を伺い、勉強になりました。

・不登校の子供が学校以外に行ける所はないか？と探していました。月謝等の予算と子供のやる気を秤にかけて、足を運ぶまではいきませんでしたが、フリースクールのあり方、月謝がお高いのにも理由がある、色々知る事が出来て良かったです。息子は中3、丸2年不登校。私も中学時代が一番学校嫌いだったなあ、と息子を見て思い出しています。そして「私も不登校したかったなあ」と思ってしまいますｗ息子休めていいなあｗって。このような窓口はいつの時代も必要だと思います。もっとたくさんの子供に知って欲しいです。

・正直なところ、自分の子には不登校になってほしくない、という思いがありました。けれども、講演を聴き、学校以外に勉強やコミュニケーションがとれる場所があれば不登校は問題ではなくなる、という言葉にその通りだと思いました。ありがとうございました。

・自分の子どもはなぜ学校へ行きたくなかったのか、親はどうすれば良かったのか、正確が知りたくて、興味がありました。 現在は、今困っている親子さんの応援をしています。（親の会等） 正確がわかっていても、なかなか出来なくて苦しんでいる方々の伴走をしたいのですが、土橋さんほどの力量はないので、土橋さんのYouTubeを聞いて、勉強させていただいています。 今日は生の土橋さんにお会い出来る事を楽しみにしていたので、とても良かったです。 ありがとうございました。

・心に残った事 ①指定された小学校・中学校に通わなかったら、別の選択肢を選べる社会があったら、子どもはどんなに傷つかないで澄んだか!? と思います。② 我が子（中1男子）は、只今「人との信頼関係を育む練習をしているんだ」と思ったら、母の心配は少し減ります。 ③こちらの思っている事を、なるべく言語化する

・子どもが運転、親が助手席、支援者は後部座席というのがとてもしっくりきました。あくまで舵取りは本人だということを忘れずにいたいと思います。 教えてくれる人アレルギーという言葉もドキッとしました。大人は教える人、子どもは学ぶべき人というのも大人の決めつけだったのですね。子どもが自然と学びたくなる大人でありたいと思いました。

「いじめとオープンダイアローグ」講演会　2024年2月3日(土)
講師　斎藤環氏（精神科医・筑波大学医学医療系社会精神保健学教授）

＊オープンダイアローグとは、開かれた対話。対話の目的は、対話それ自体。対話を継続することが目的。そうすると一種の副産物"オマケ"として勝手に変化（≒改善、治癒）が起こってしまう。

＜参加者アンケートより＞

・オープンダイアローグについてさらに学んでみたくなりました。特別な資格は必要なく、身近なところでも実践できる可能性を感じたので。いじめについては、加害者の処罰とケアは両立するという点が印象的でした。具体例をもう少し聞きたかったところです。貴重なお話をありがとうございました。

・大変勉強になりました。被害者に寄り添い、かつ、キッパリとしたご発言がお聞きしていて清々しく、スッキリ、勇気や元気がでました。先生のご著書は何冊か拝読していましたが、また、新しいご著書を購入しようと思います。 オープンダイアローグ、あたたかく、人間的で、愛を感じる療法ですね。やっぱり対話って大切！と感じました。察する文化の日本ですが、直前話してみないとわからないことがある、これから対話を大切にしようと思いました。

・学校では 8 割が被害者泣き寝入り対応になっている現実、そしていじめ被害体験が長きに渡って本人を苦しめ、人生を破壊させてしまう恐れもあること、いかにいじめの初期対応が重要であることがよくわかりました。またいじめの PTSD の 50%は安全で親密な複数の人間関係をもつことで治癒するというお話に希望ももちました。先生のお話、質疑と大変充実しており、多くの学びを得ました。

・不登校、いじめは問題提起されてからずいぶん時間が経ちますが、まともな対策がまだできていないことにそれは仕方ないからと思う自分がいました。そうではなかったことを知ることができました。被害者泣き寝入り対策がまだまだ幅をきかせていると聞き、愕然としました。 スクールカーストが固定されたメンバーの中で起きるということ、大人も同じですね。閉鎖的で保身的な環境はすぐに醸成されることを痛感しています。オープンダイアローグがそこを突破する可能性があることに希望を感じています。専門家でなくても、3 人いればできるということも大いに背中を押して頂けた思いです。

・先生の話しに引き込まれ、あっという間に時間が過ぎました。いじめを受けたことでその後の長い人生に大きな影響を与える…改めて怖いと思いました。「対話はフラットな関係で成り立つ。結論を急がない。」先生と生徒、友達、親子…全てに当てはまると思いました。心に留めながら「対話」をしていきたいと思いました。

・斉藤先生は、ここが悪いと物事はっきり伝えて下さるので、時間があっという間にすぎました。いじめなどが不登校に繋がり、ひきこもりになる事が考えられる。やはり時間を置かず、その時に対応する事が大切なんだと理解できました。

・今回、いじめとオープンダイアローグについて貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。私自身、現在矯正職員として働いておりますが、今般導入され始めているオープンダイアローグについての知識もまだまだ浅く、どのように進めて良いか試行錯誤を繰り返しておりました。今回のお話から沢山の参考になることを得ることができました。また、いじめについても、少年法改正のきっかけにもなった 31 年前のいじめによるマット事件で被害者となった友人を亡くしました。時が経過しても学校側が何も変わっていないことに落胆し、斎藤先生が望む学校教育に深く感銘しました。被害者が少しでも減るように努力しながら、仕事に励んでいこうと思っております。

・齋藤先生がズバズバと問題点や対処法を話してくださるのを拝聴し、とても力をいただきました。これだけ大きな根が深い問題なので、向き合っていくには、先生がおっしゃるように「うざがられても気にせず訴えていく」しかないし、それで良いんだと気持ちを取り戻すことができました。本当にありがとうございました。先生のお話を聞いているのといないのとでは、子どもにとっても、保護者にとっても、学校側にとっても、対応や子どもの傷付きが大きく違ってくると思います。特に学校の先生たちには聞いてもらいたいです。

なぜ戦争は止められないのか

森　俊博

ロシアとウクライナとの間の紛争が終結しないうちに、今度はイスラエルとハマスとの間で戦乱が起きた。イスラムの国々やそこの過激派武装組織も、反イスラエルを掲げていて、いつ参戦してきてもおかしくない。他にも、イランとパキスタンの国境や、アゼルバイジャンとアルメニアの間でも戦禍があり、その火種はまだ残っている。

為政者は自国の威信を保ち国土を死守するために、反対勢力がもう反抗できないぐらいに叩きのめしたいらしい。大体、戦争はそのようにしてどちらかが疲れ果てた時に終わるものかもしれない。日本もかつて、戦争で連合国に徹底的にやられ原爆まで落とされて、やっと自らの敗戦を認め終戦に至った。イスラエルやロシアはそこまで徹底してハマスやウクライナを全滅させなければ戦争を終えないつもりらしい。

一方で、この原稿を書いている執筆時現在、京都アニメーション放火殺人事件の被告に死刑の判決が出た。被告は京アニに対して恨みを持っていた。いや、本当は社会に対して恨みを持っていたのだが、たまたまその矛先が京アニに向けられたようだ。多くの被害者はたまったものではないし、その遺族の無念さも想像に難くない。加害者には被害者相当の苦しみを味わってもらうために、死刑を願うのは当然かもしれない。それでなければ気が済まないであろう。

また、高齢者による交通事故被害で家族を失った人たちが、高齢の加害者に厳罰を科すことを求めている。これは、単なる悲しみと怒りからだけではなく、高齢者ドライバーに注意を喚起し、免許返納も促進できると考えてのことだろう。罰則を強化すれば、事故や犯罪が減るとの考えからだ。

確かに、人は罰を嫌って仕方なく法律を守ることもある。しかし、罪は犯したくて犯すことは稀で、愉快犯や無差別殺人の場合でも、犯人にはそれ相当のそうしないでは居られない事情があることが多い。京アニ事件の犯人にも同情したくなるような生い立ちがあった。そして、それを誰かが聞いてやれれば事件は起こらなかったかもしれないというコメントもよく聞く。何十人も人を殺したことは許されない。しかし、彼の心の底にある悲しみと怒りを聞いてやれなかった我々は、傍観者として誰かが彼の話を聞いてやればよかったなどと簡単に言って済ましていられるのだろうか。

そこで思い出すのが河野義行さんである。松本サリン事件で誤認逮捕された人である。奥さんもサリンの被害者で、後に亡くなる。結局、真犯人はオウム真理教関係者だったことが分かり、河野さんは警察やマスコミから謝罪を受けた。その河野さんは、人は誰でも間違いを犯す。だから警察のことも許すし、オウム真理教の青年たちのことも許した。そして、彼らに何度も面会し話を聞いたそうだ。彼らのせいで誤認逮捕され名誉も毀損されたのに。

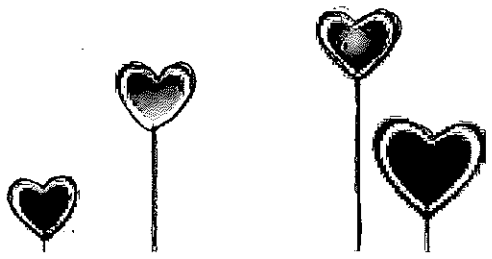
動物には、生きるためにやられたらやり返したくなる本能がある。しかし、一方で家族や仲間を守ろうとする本能もある。だから、家族や仲間が被害に遭ったら仕返ししたくなる。しかし、複雑に絡み合った人間関係で成り立っている社会では、単純に正義や罪を判定できない。だから、戦争や犯罪を減らすには厳罰だけに頼っていては限界がある。

能登半島地震の際に、北朝鮮からも見舞いのメッセージが届いたという。単なる形式的な対応かもしれないが、このような時こそお互いに理解し合えるチャンスなのではないだろうか。日本も、形式的に感謝の意を返信するだけでなく、困ったときにはお互いに助け合おうとのメッセージも送ったらどうだろうか。拉致問題もそのような方面からのアプローチで解決の糸口が見つかるかもしれない。

かつて日本が統治していた台湾からは多くの見舞金が届いた。台湾での地震の際に日本も支援をしたからだ。過去の過ちを素直に謝罪し、相手を許し新しい信頼関係を築くことでしか平和は得られない。韓国では従軍慰安婦問題や、徴用工問題でまだ日本への怒りは収まっていない。時間が経てば怒りも憎しみも消えてしまうというものではない。日本は、既に解決済みの案件だとして突っぱねないで、何度も謝罪し誠意を尽くすべきだろう。

イスラエルとパレスチナは何度も諍いを繰り返した歴史がある。そのため、被害者が加害者になりその反対もありで、その解決には全世界が手をこまねいている。被害者が加害者に報復すれば、加害者だった人たちが今度は被害者になる。被害者になった人たちは悲しみ怒って報復する。そして、新たな被害者を生み、被害者だった人たちは加害者になる。このエンドレスなスパイラルをどうすれば止められるのか。

旅人のコートを脱がすには北風ではなく、太陽のような暖かさが必要であるように、武力や厳罰ではない心を通わせるような河野さんの生き方が参考になりはしないだろうか。



「ココロノアリカ」vol.36　『私の取り扱い説明書　その２』

宮田　哲郎（水戸南高等学校　定時制同窓会会長）

さて、私自身の発達特性に関する３回連載の２回目になります。何か似たような特性などでお悩みの部分ありましたら、一つのモデルケースとしてご参考になれば幸いです。

２つ目は『知覚統合の困難さ』です。

知能検査を受けた際、自分のIQで最も低く結果が出た『知覚統合』。簡単に言うと「複数の情報をまとめ処理する力」の部分になりますが、数値は軽度知的障害レベルとなっており、時期や状況、二次障害の影響などによって多少の変動はあると聞いたものの、そこが一番苦手な部分であることには違いありません。これがどういう形で表面化するか、というと『人より行動ペースが遅い』という形で顕著に現れてきます。

例えば、部屋の中が散らかっているとき、皆さんはどうやってその状況を認識するでしょうか？　おそらく大半の人は、全体的なぼやけた面として部屋の風景を目にし、なんか色々雑然としていて散らかっているなぁ、と感じるのではないかと思います。しかし、知覚統合が苦手な私にとっては風景にある一つ一つの情報は全て『鋭利な点』として認識されます。ティッシュが落ちているとか食器が片付けられてないとか、一つ一つの細かな事象が全部、点として認識されるので、部屋全体が散らかっているという認識に至るためには、その一つ一つの点となった情報を頭の中でまとめなおさなければなりません。一事が万事そういう状態なので、おのずと目の前にある状況を認識し、それに対して行動をするという状況だと人より情報処理に時間がかかるため、行動ペースがどんどんずれて遅くなっていきます。さらにそうした情報処理をするためには頭をフル回転させなくてはならないので、とても強く疲労します。

また、こうした苦手が顕著に影響を与える部分として『会話』があります。言葉は目に見えません。すぐに消えてしまいます。でも頭の中でそれを覚えておきながら、相手から伝えられる情報の『点』を頭の中でさらにまとめなおして、何か適切な返答をしなければなりません。私はワーキングメモリー（聞いたもの見たものなどを瞬間的に覚えておくことが可能な秒数）が人より短めという特性があるので、よりその苦手さに拍車をかけます。それでも社会の中で生活するには会話ができなければならないので、工夫が必要です。そうした時に自分が考え身につけてきたものは『無難な定型文や話題を考えておいてそこからチョイスして返答する』『判断を求められるときは基本YESしか言わない』という部分です。そうしないと人間社会の会話のスピードや判断のスピードについていけません。

でも、ここには大きな落とし穴もあります。それは『NOと言えない』ということです。
相手から判断を求められたものについて、それを拒否するためにはまず相手から伝えられる言葉や意図を、スピード感の中で理解する必要があります。さらに拒否するための理由も考えなくてはいけません。全ての情報が点で入ってくる自分にとって、それはとても時間がかかる事象です。それを待ってもらえるほど、人間同士の会話のテンポというものは遅くありません。なのでYESと言うしかない。保留すればいいと思われるかもしれませんが、保留しちゃったら今度はワーキングメモリーの限界で忘れてしまうので、後から片付けるのもそのために覚えておくのもとても疲労度が高いです。なのでYESと言うしか術がない、という状況になります。

こうした状況下のため、適当にやり過ごせる範囲で物事が進んでいくうちはいいのですが、どこかでいつも限界が訪れます。頼まれたことを全てYESといって引き受けているからです。時間が無くなり、余裕が無くなり、いっぱいいっぱいになって、ある日スイッチが入らなくなって仕事に行けなくなる。そうした状況を何回も繰り返してきました。

そのため、必要になってくる合理的配慮としては『第三者の協力によって、全体の作業量の確認とYES/NOの判断を手伝ってもらう』という部分です。「大丈夫？」って聞かれても「大丈夫」しかその場では答えられず、頭の中にある情報は『バラバラの点』なので大丈夫かどうかを本質的に判断するには一回それをまとめなおさなければいけません。そのため本当に大丈夫なのかどうかを改めて確認してもらう機会を創ることで、状況をまとめる作業と大丈夫かどうかを判断するという作業を同時に出来るだけでなく、今後の業務量のボーダーライン設定をしたり、現在オーバーワークになっている部分を誰かに頼むという作業について協力をお願いしたりすることで、社会とかみ合わない部分の穴埋めをご配慮いただく感じになります。

また『会話で返答しなくて済むようにする』ということも一つの対処法です。メールや伝言メモなど、自分の中で咀嚼して返答を考える時間的余地がある方法で相手に伝えられる仕組みを作っておく。これも社会への対応として自分に必要な工夫でした。（次回へ続く）

♡♡♡

次回は『自閉症スペクトラム障害（ASD）によるこだわりの強さ』についてです。今回までのポイントは合理的配慮の部分や対処法としてもコントロールする余地がありましたが、次はそうもいかない部分でした。

よしこの世界一周大冒険 【6回目の世界一周旅行は、ミッション・インポッシブル】

大人の世界一周アカデミー校長の世界のよしこです。
お金をかけなくても英語が喋れなくても 60 歳過ぎても毎年世界一周旅行へ行く賢い行き方と何歳からでも挑戦できる生き方をオンラインスクール「大人の世界一周アカデミー」でお伝えしています。

【よしこの Happy Stay 大冒険】

さて今年も行きます世界一周旅行。6 回目になります。2024 年 5 月 12 日から 9 月 29 日まで 4 カ月半の予定です。半年の一大プロジェクトです。コンセプトは、お金で夢をあきらめない。お金をかけない旅をします。ご縁でつなぐ世界一周です。世界中の友達宅に泊めていただく予定です。題して、「るんるんお泊り会 in 世界のお友だちのおうち de 世界一周」無形資産、お金でない幸せの形を体現する旅にします。

【予定しているイベント】

●5/12(日)出発式 in 羽田空港
●5/23(木)パリの東洋言語学院にて講演会。通訳は友人
●5/25(土)パリの天理文化センターにてセミナー開催&誕生日 Party
●9/29(日)帰国 in 福岡空港
●10/12(土)20 時～100 人報告会 Zoom

【ルート】

福岡→羽田→タイの首都バンコクとチェンマイ→トルコの首都イスタンブール →サウジアラビアの友人宅→パリの友人宅→パリ郊外の友人宅→スペインのバルセロナ→南仏のプロバンス→スイスのチューリッヒ→カナダのプリンスエドワード島近くの友人宅→アメリカ東海岸の友人宅→アメリカ中部の友人宅→ロスの友人宅→ペルーの首都リマからクスコの友人宅へ→ブラジルの首都サンパウロの友人宅→福岡空港

【お願い】

外国に住む日本人の友達もしくは日本語が喋れる友人がいるかたは是非紹介してください。各 SNS の DM やメッセンジャーでの連絡お待ちしています。世界のよしこで検索してください！

6 回目の世界一周も、またまたとんでもない大冒険になりそうな予感。どんなご縁が繋がるのか楽しみです。旅行の様子は YouTube でご覧くださいね。マイルを貯めて 0 円でファーストクラスに乗って世界一周旅行へ行く秘密を知りたい方はぜひ無料メルマガを読んでください。あなたの人生に旅という楽しみを。
世界のよしこ公式サイト https://445life.com/

こそだてコラム

安野名都美 ♪ブログはこちら⇒

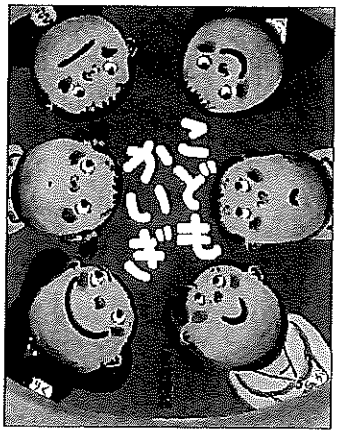
私は沖縄生まれ沖縄育ちの 2 児のママです。2022 年の夏に、水戸市に引っ越してきました。水戸こどもの劇場さんのイベントにお世話になりつつ、小学 1 年生と 2 歳の男の子を育てています。親戚も知り合いも、全然いない中での引っ越し。

1 番大変だと感じたのが「子どもと一緒に楽しめる場所がない」ということでした。比べるようで申し訳ないのですが、沖縄は子連れで行ける場所がたくさんあるんです。というか、子どもも一緒にお出かけするよね！それが普通だよね！って感覚なんです。カフェの中にもお座敷があったり、キッズスペースが用意されていたり、そんなお店が多い。子どもたちが席を離れてしまっても「あら、かわいいねー。だあ（どれ）、お母さんはどこね?」みたいな感じで、周りがあたたかく見守ってくれる。すっかり心が緩んで、また子育て頑張ろう！と元気をチャージすることが、できていました。そんなホッとできる所がなかなか見つけられず。公園に行っても、「みんな待ってるんだから、そろそろ代わりなさい！」ママ達は周りの目を気にするように、子どもたちを急かしている。コロナ禍の色んな制限が明けたばかりで、みんな気を張っていたのでしょう。仕方ない。でも正直、息が詰まるような感覚を覚えていました。

ようやくお友達が出来始めたころ、みとぴよ音楽隊の存在を聞きました。水戸こどもの劇場さんを知るきっかけでした。そこから、赤ちゃんゲストだったり（当時 1 歳の次男がゲストでした）、転勤族のママの集いだったり、ウクレレも教えてくれるの！と、ウクレレサークルへ。参加できるイベントには、片っ端から顔を出したんじゃないでしょうか…。先日のウクレレサークルでこんなことがありました。劇場さん事務所の畳間で、子ども達は貸し出し用のおもちゃを出し、それぞれに遊んでいます。その傍で大人達は、クリスマスの演奏会に向けて「ジングルベル」を弾いていました。一緒に来ていた次男が、その日は「かあしゃーん」としょっちゅう、膝に乗ってきます。困りました。ウクレレが持てなくて、全く練習が進みません。ハッと気づいたママさんが、「ほら、トーマスのプラレールがあるよ！」と次男の気を逸らしてくれました。「え、トーマしゅー?」と嬉しそうに、私の膝を降りてトーマスを手に取る次男。「さ、今のうちにやっちゃいましょう」ウクレレ指導をしてくれている主催さんが気を利かせてくれました。慌てて私もウクレレを構えます。弾きたいけれど、子どもがいるから我慢しよう。一瞬そう思いました。やりたい気持ちを抑えよう、諦めようとしたんです。でも隣のママさんが、サークルの主催さんが、助けてくれました。「ママだってやりたい事をしていいんだよ。みんなの力を借りればいいんだよ」そんなメッセージを貰った気がしました。みんなの優しさが、じんわり心に沁みました。子どもはもちろん、ママも自分の「やりたい」を楽しむことができる。そんな場を提供し続けてくれている、こどもの劇場さんには本当に感謝です。これを読んでくれたあなたとも、どこかのイベントでご一緒する日が来るのかな。楽しみです。

●絵本の紹介●

「図書館司書」ずんちゃん



「こどもかいぎ」

北村　裕花／作・絵
出版：フレーベル館

こどもたちの間で開かれる“こどもかいぎ”――本日の議題は「おこられたときはどうしたらいいか？」です。対応策を出し合っているうちに、自分のパパママがどれほど怖いか自慢大会になってしまいます。即可決！の、こどもたちが最終的に出した結論とは…！？こどもたちの間でどのような話し合いが行われているのか、こっそりのぞいてみませんか？

「はるにあえたよ」

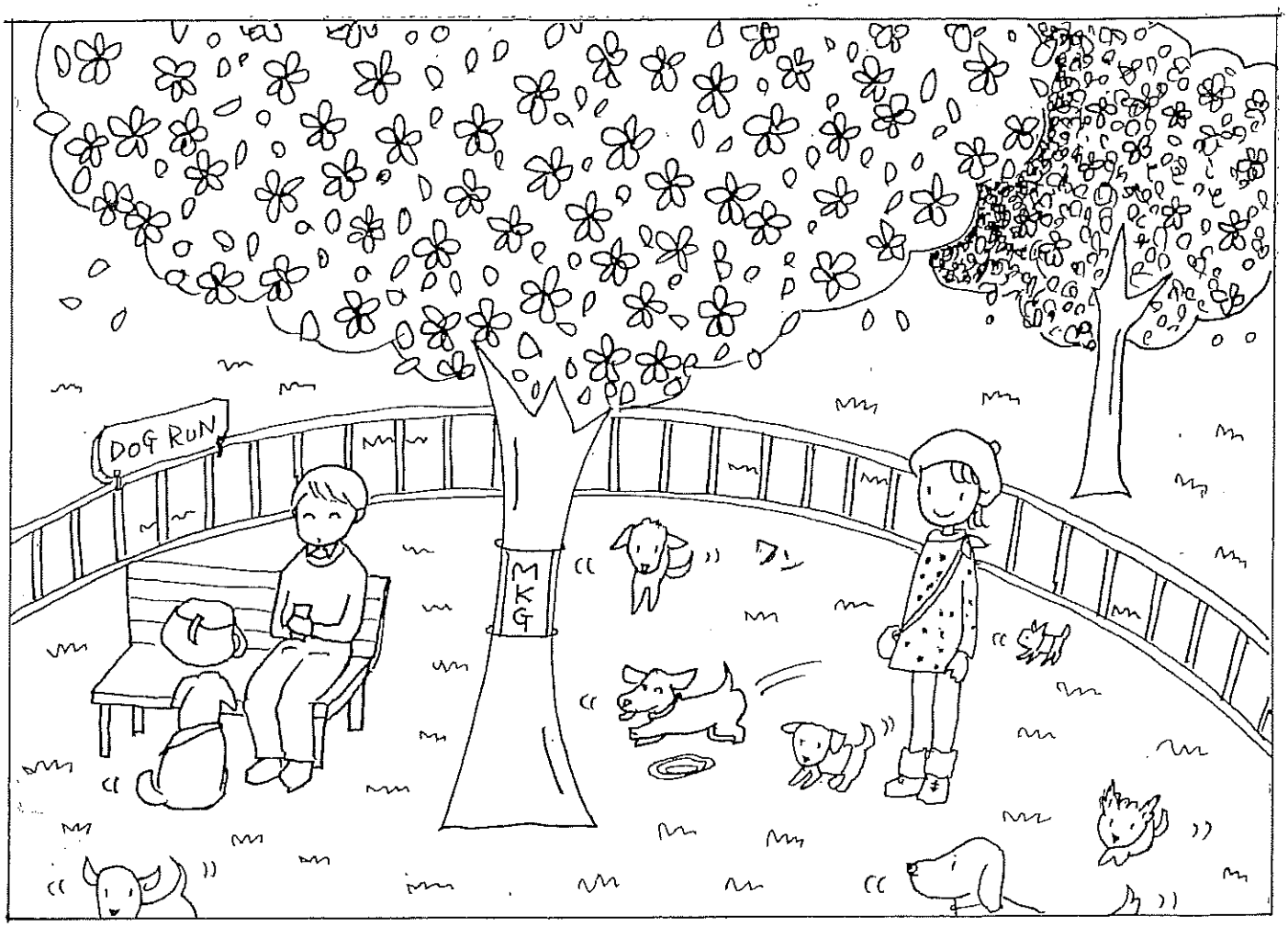
原　京子／作
はた　こうしろう／絵
出版：ポプラ社

冬眠から目覚めた双子のこぐまのマータとマークはまだ外に出たことがありません。初めての“はる”にわくわく！待ちきれなくなって“はる”を探しに飛び出します。こぐまたちは「みどりいろで、あかくて、きいろで、そしていいにおい」の“はる”に出会えるのでしょうか？可愛らしい勘違いが春の雰囲気にもぴったりなお話です。

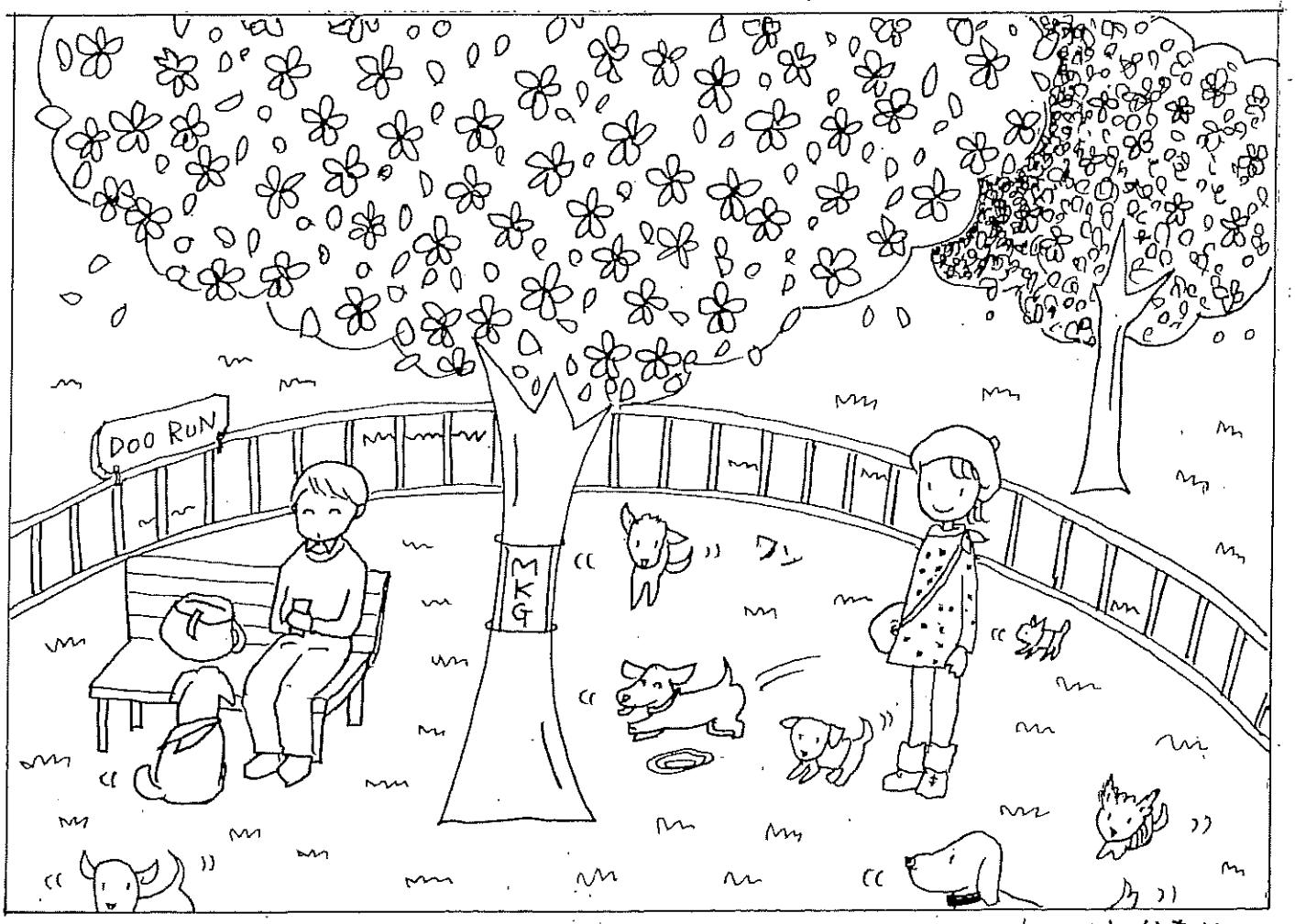
「いのちがかえっていくところ」

最上　一平／作
伊藤　秀男／絵
出版：童心社

初めての魚釣りで苦戦するたもん少年。魚との格闘の末に釣り上げたのは大物のイワナでした。「いのちが手の中にある。いのちをつかんでいる」美しく愛おしいイワナを食べることになり、初めて命と向き合い、命の重さを実感する少年の物語です。食事は命を“いただきます”と感謝し、いただいた命に生かされているのだと、改めて気付きをくれる絵本です。



まちがいさがし（10か所あるよ）



by はっかあめ

毎月の活動（その他　文化創造体験活動、自主活動なども開催しています）
＊変更や中止になる場合もありますのでお問い合わせ下さい。ホームページをご覧ください。

おもちゃ貸し出し
エルマークラブ　対象：幼児の親子　【申込制】
毎週水曜日、第1・3金曜日　利用無料
水戸こどもの劇場事務所（各回1～2組限定）
①11：00～11：45②12：00～12：45③13：00～13：45
＊おもちゃや本の貸し出しあり
貸出料　会員無料(要登録3千円、会員外1回500円)
○お申し込み　ホームページから
　またはお電話で　事務局029-255-0908

多世代交流
たまり場「はやま庵」
毎週月曜日　10：00～12：30　利用無料
水戸市老人福祉センター葉山荘内和室
○お問い合わせ　葉山荘　029-243-5508

ゆる～いヨガの会　毎月1回　対象：大人
硬くても大丈夫！参加費：会員550円、非会員1100円
水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）
詳しくはホームページからお問合せください。

ガレッジセール　【申込制】
月1回程度　主に火曜日＆時々土日　11時～14時
水戸こどもの劇場事務所隣　トレーラーハウス
子ども服や雑貨日用品などをご覧下さい。
＊日程・予約はホームページまたはお問合せください。

ガブの会　毎月読み聞かせ会をしています。
東部図書館2F　第1・5土曜日　14時～14時半
見和図書館　第3土曜日　14時～14時半
参加費：無料

個性ある子育てサロン**comodo（コモド）**　対象：大人
月2回程度　10時～12時
発達が気になる、HSC等、子育ての悩みを話す会
水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）
○お問い合わせ　事務局029-255-0908

みとぴよ音楽隊♪　ファミリーブラスバンド
練習は月5回程度9時半～12時(対象：大人 子連れOK)楽器の演奏を楽しんでいます。＆依頼演奏あり
参加費：要活動会員登録（年3千円）
　入会金1000円・毎回200円
＊練習場所等についてはお問い合わせください。

多胎児サークル**かるがも**
双子ちゃん三つ子ちゃんを持つ親子のサロン
月1回金曜日　10時～12時　参加無料
水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）
○お問い合わせ　事務局029-255-0908

ウクレレ＆ギターサークル♪「ピコ」　対象：大人
毎月1回　10時半～14時(子連れOK)　事務所にて
ゆる～くウクレレやギターを楽しむ会です！
参加費：会員無料、会員外1回300円
＊見学できます。気軽にお問い合わせください。

こどもの居場所　**ポルタ**　【申込制】　第3の居場所～自分らしく安心して過ごせる～
（2024.4～）日時：火・水・木曜（祝日・年末年始・お盆休み除く）9：15～15：15　入退室自由
場所：あとりえず～む（水戸市根本1-146）対象：小学生～中学生のお子さん、親子、大人
参加費：1回1000円 ＋ 年間諸経費・保険料5000円／年（体験2回無料）
○お問い合わせ・お申込み　水戸こどもの劇場HP、又は事務局まで　電話029-255-0908

水戸市子育てひろば　**ぽかぽかつどいの広場**　（水戸市受託事業）
毎週火・水・木・金・土10：30～15：30（日・月・祝日閉館）
場所：水戸市福祉ボランティア会館(ミオス2F)
未就学児の親子を対象に、交流の場を提供しています。
参加費：無料　毎月講座開催中（講座のみ予約制）
○お問い合わせ　ぽかぽかつどいの広場　電話090-8348-5375まで

0歳児の日
1歳児の日
あります

moso カフェ　対象：大人
月1回程度　10時半～13時半　ウクレレなんかも♪
事務所となりトレーラーハウスにて
ゆったりまったり自由に過ごすゆる～い会です。
手作りのお昼ご飯やバザー品もあります。

遠足くらぶ　対象：子ども～大人　【申込制】
複数家族で季節ごとに山歩き、釣り、サイクリング、果物狩りなど、いろんなことを体験しています。
参加費：会員無料、会員外1回500円（その他実費）
詳しくはホームページからお問合せください。

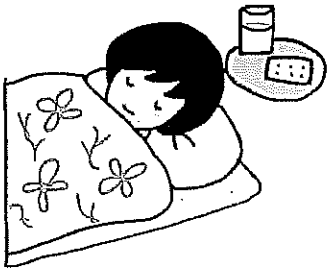
室内ゲームの会「On the table」　対象：小1～大人
毎月1回、土曜か日曜祝日（不定期）　10時～15時
水戸こどもの劇場事務所で、電気のいらないゲーム、カードゲームやボードゲームで楽しく遊びます。
参加費：無料　出入り自由

ほっと！HOT！スクウェア　ファミリー情報番組
毎週土曜日15時～16時　毎週火曜日（再）
スタッフはみんなお父さんお母さん、生活の中で気づいた疑問、得た情報を放送中です！
ラジオFMぱるるん　76.2MHz　放送中！

●訪問型病児保育“ぷちぷり”のご案内●

対象：水戸市居住の生後６ヶ月～小学生までのお子さん
実施場所：水戸市内の利用する児童の自宅
利用時間：原則として８時～20時まで

水戸市受託事業として水戸こどもの劇場が実施しています。
病気のお子さんを、研修を受けたスタッフが登録のあったご家庭に伺って見守ります。
事前登録、医師連絡票が必要です。
その他詳細は、水戸こどもの劇場ホームページをご覧ください。



＊登録会を開催しています。(要予約)
（お問合せ）TEL029-255-0908

会員募集中！

入会は、子どもから大人まで。

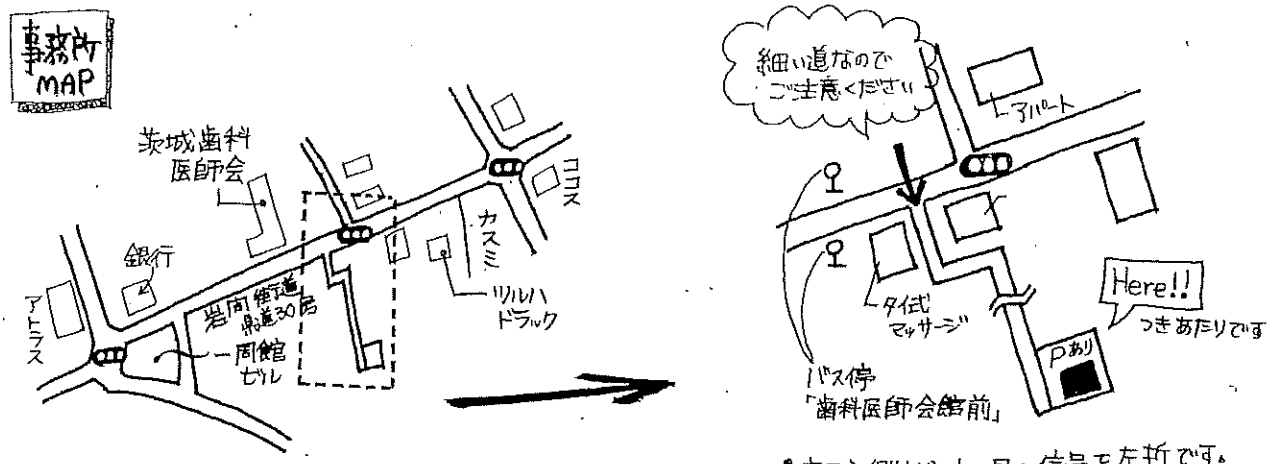
正会員	入会金	５００円
	月会費	１，０００円
活動会員	年会費	３，０００円
ボランティア登録会員		
	(大人のみ)	学生無料
	年会費	１，０００円
賛助会員	一口	５，０００円～

＊賛助会費は寄附扱いになります。

＜賛助会員の皆さん＞

石川クリニック様、水戸吉沢小児科クリニック様、河和田幼稚園様、サンライフ・サンフーズ様、モダンデンタル中庭歯科医院様、乳がん仲間の小さなおしゃべり会momo様、水戸産業医事務所様、雨宮則子様、井上多加志様、井上瑞穂様、岩田みなみ様、内桶純子様、加藤智明様、河原井忠男様、杉野美子様、柳橋剛様、田中光彦様、中根一昭様、野口祥子様、袴塚雅彦様、大倉美紀様、植木剛様、森田直幹様、森田大輔様、桜井大介様、岩熊玲央奈様、軍司朋子様、新妻俊英様

(順不同・２月末現在)



・カスミ側から1つ目の信号を左折です。
・駐車場あります（台数に限りあります）

＜住所：水戸市見川2-82-11＞

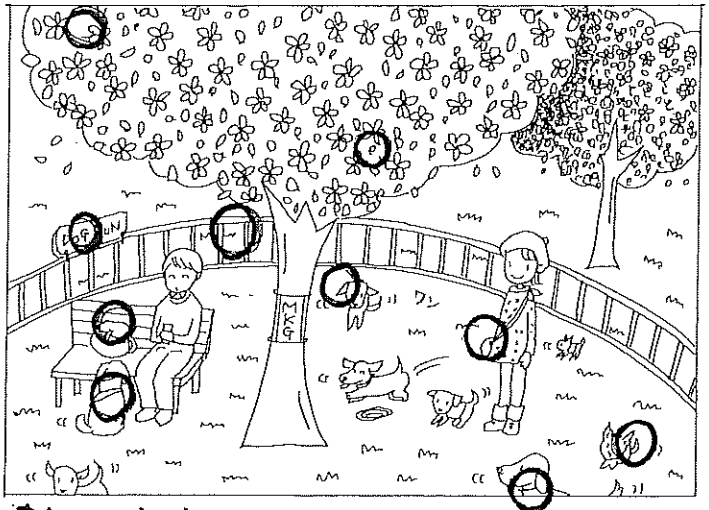
◆寄附のお願い◆

私たちの活動は、会員の会費や助成金、行政からの委託などの事業収入、ボランティアスタッフの奉仕によって実施されています。
全ての子どもたちが尊重され、この地に生まれてよかったと思える環境を私たち大人が創ることが豊かな未来を育てると信じています。未来を育てる活動をご支援ください！

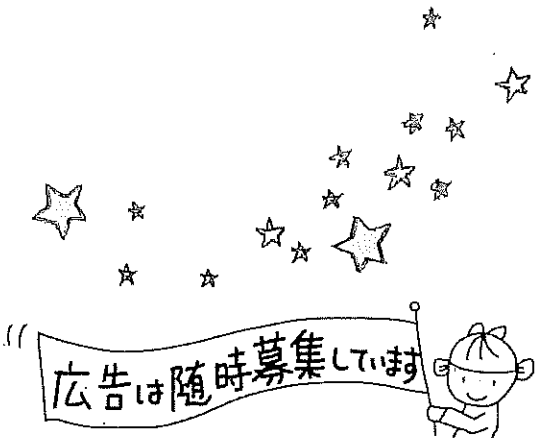
認定NPO法人として多様な活動を支えるために１人3,000円～、年間100名以上の寄附者を募集しています！ご協力をお願いいたします。

認定NPO法人への寄附は、確定申告をすると税金の還付が受けられます。
ぜひ応援よろしくお願いいたします。
＜お振込先＞
・郵便振替　00300-8-1833　水戸こどもの劇場
・常陽銀行　見和支店　普通　1261264

p.8 まちがいさがしの答え
10個見つかったかな～？



まちがいさがしのこたえ



＜広告＞

まるごとカフェ

まるごと CAFÉ

平日11:00～16:00（土日祝休み）

- お弁当イートイン（カフェで食べられます）
- ユーアイ子育て支援センターのすぐとなり
- ユーアイほいくえんのすぐとなり
- 平日14時からはフードロスタイムでお弁当100円！（売り切れ次第終了します）

社会福祉法人ユーアイ村｜ユーアイキッチン
水戸市吉沼町1429-12　電話029-212-3775

中古車購入　衝撃のシステム

○毎週10万台以上のオークション出品車両から、お気に入りのクルマをお選びいただけます。
○オークション出品車両を直接買い付け、お客様にお届けしますので、
中間マージンの大幅カットによりとにかく**安い！**
○**出品表・評価点オープン**で厳格な品質チェックにより、**安心**してクルマをお選びいただけます。
○**1年間無料ロードサービス**付き

お気軽に遊びに来てくださいね。
スタッフ一同、心よりお待ちしております。

お問い合わせはフリーダイヤル　0120-977-380
中古車情報館　スーパーオークション水戸河和田店
水戸市河和田町3035-14
営業時間　10:00～20:00　定休日　月曜

吉田石油　50号バイパス・岩間街道交差点内

●編集後記●

・(H) 鉄のフライパンを買いました！最近のは良く出来ていて昔のイメージとは違いだいぶ扱いやすくなっています。鉄分補給にもなるし、食は大事ですからね、体に入れるものはちょっと気を使って免疫力up
・(N) 今月から私が人生初の１人暮らし。ぐうたらしつつも、これを機に断捨離して、使いやすい部屋にしたいなぁ～と、すてきな奥さまのYoutube観ては、夢見ています♪